No.150　嫌色素性腎細胞癌

済生会熊本病院　中川　美弥

症　例：60 代，男性
既往歴：自身で腹部超音波検査をしたところ，左腎腫瘍を発見した．ＣＴおよびＭＲＩ検査では 25㎝大の腫瘍を認めた．左腎細胞癌が疑われ，手術となった．
検　体：腎腫瘍捺印

細胞所見

リンパ球などを背景に，比較的N/C比の低い細胞がシート状あるいは散在性に出現していた．細胞境界は明瞭で，核は軽度の大小不同を伴い，一部の核にしわを認めた．また，二核細胞も少数混在していた．ギムザ染色では，好酸性顆粒状細胞質を有する腫瘍細胞がシート状に出現していた．これらの所見から，オンコサイトーマや嫌色素性腎細胞癌，淡明細胞型腎細胞癌の好酸性亜型などが考えられた．

組織所見

組織学的に，淡好酸性細胞質を有する腫瘍細胞が充実胞巣状または腺管状，一部索状に増殖していた．細胞質は淡好酸性で，核の大小不同や核縁不整が目立ち，二核細胞も認めた．核のしわや核周囲が明るく抜けた perinuclear halo もみられた．

免疫染色では，腫瘍細胞がＣＫ7 強陽性，c-kit 弱陽性，Ｅ-カドヘリンとＣＤ10 に陽性を示した．以上の所見から，嫌色素性腎細胞癌と診断された．

鑑別点

嫌色素性腎細胞癌は，集合管の介在細胞から発生する腫瘍で，腎腫瘍全体の５％を占める．肉眼的に充実性の境界明瞭な腫瘤を形成し，分葉化を呈することもある．ホルマリン固定後の腫瘍割面はベージュ色を呈することが特徴である．組織学的に通常型と好酸性亜型に分類されている．腫瘍細胞は充実性，敷石状，管状に増殖する．核にレーズン様のしわが目立つのが特徴で，しばしば二核細胞もみられる．また，好酸性細胞に perinuclear halo がよく観察される．免疫染色では腫瘍細胞がＣＫ7，Ｅ-カドヘリン，c-kit に陽性である．ビメンチン，ＣＤ10 は通常陰性であるが，悪性度の高い腫瘍では，ＣＤ10 が陽性になる場合がある．鑑別疾患として，好酸性細胞質を有するオンコサイトーマや淡明細胞型腎細胞癌（好酸性亜型）などが挙げられる．

オンコサイトーマは，肉眼的に褐色調（マホガニーブラウン）を呈する．腫瘍細胞は均一な大きさであり，核は円形で中心部に位置し，一般的に核のしわや perinuclear halo はみられない．二核細胞は存在するが，嫌色素性腎細胞癌ほど多くないのが通常である．

淡明細胞型腎細胞癌は，肉眼的に黄色調を呈し，腫瘍細胞の細胞質所見から通常型と好酸性亜型に分類される．好酸性亜型は，細胞質が好酸性顆粒状で，比較的異型の強い核を伴い，胞巣状あるいはシート状に配列する．腫瘍細胞の大きさは比較的均一であり，細胞境界は厚くないので，鑑別可能である．

参考文献

腎癌取扱い規約（第４版）
腫瘍病理鑑別アトラス　腎癌
病理と臨床 2010 Vol.28 No.10 p1043-1047
細胞診ガイドライン１　婦人科・泌尿器